

# 多様なステークホルダーによりGPを策定。 ルーブリック化して各教科・科目に落とし込む

勝山高校（福井・県立）

## カリキュラム作成には GPの策定が不可欠

「恐竜のまち」として知られる福井県勝山市にある勝山高校。少子化や福井市内の高校への生徒流出により、近年は定員割れが続いてきた。なんとか地域の高校を存続させようという気運が高まるなか、生徒の地域課題探究（総合的な学習の時間）を通して市役所など地域とのつながりも強まっていた。

そうしたなか、2023年度に予定されていた新学科（探究特進科）の開設を1年前倒しにすることが、県の方針で決定。2021年3月に同校に通知があり、校長、教頭、教員3名による探究科準備委員会（以下、準備委員会）が設置された。メンバーの一人だった前田英明先生は、「開設準備には通常2年はかけるので、最初は困惑した」と振り返る。

県への新教育課程の提出期限は7月。「カリキュラムを作るためにはカリキュラム・ポリシー（CP）が必要。そのためにはグラデュエーション・ポリシー（GP）を策定して育てたい生徒像を明確にする必要がある…」と、このことで、

早急にGPを作ることになった」と、同じく準備委員会のメンバーだった堂森峰春先生は、スクール・ポリシー策定に着手した経緯を説明する。

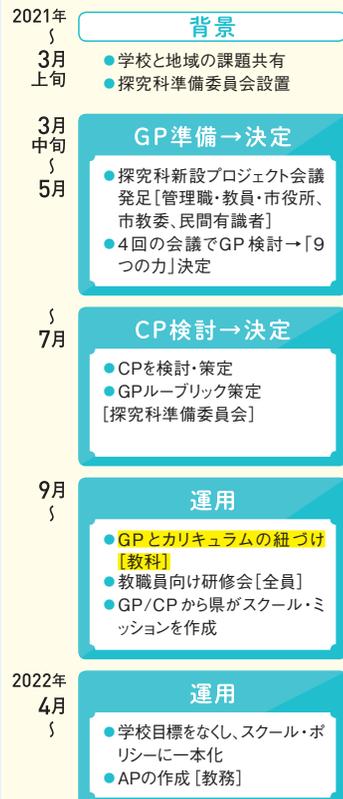
## 校内外の多様なメンバーによる プロジェクト会議でGPを策定

GP策定に際しては、校内外の関係者や有識者からなる「勝山高校探究科新設プロジェクト会議」（以下、プロジェクト会議）を結成。準備委員会のメンバー5名に加え、勝山市教育委員会から小中学校の教員を含めて4名、勝山市役所の職員4名、民間企業から2名と、多様なメンバーが集った。地域との意識の共有や連携が進んでいた同校にとっては、「ごく自然な流れだった」と、前田先生は言う。

プロジェクト会議では、「勝山ってどんなところ？」と歴史や特色を振り返るところからスタート。「勝山にはどのような人財が必要か、育成したいか」について意見を出し合い、「勝山高校で育てたい生徒像」に落とし込んでいった。

4～5月にかけて4回会議を行い、5月半ばには普通科・探究特進科共通のGPを策定。「ものごとくに常に問いを

## 勝山高校の スクール・ポリシーの策定プロセス



向け、本質を見極める力（思考力・判断力・表現力）など9つの力としてまとめ、学力の3要素に紐づけた。

## GP実現のためのCPを策定。 GPを教科の学びに紐づける

こうして策定されたGPに基づき、CPは準備委員会を中心に検討・策定していった。普通科・探究特進科共通のCPは3項目からなり、「生徒の興味関心に応じた学びの時間を確保するため、週あたりの授業時数を31単位とする」ことを明記。加えて探究特進科では、1年次に総合的な探究の時間を3単位設定すること、学校設定科目「LABO」を2年次に3単位、3年次に2単位設定することが示された。

「福井県は他県に比べて単位数が多く、本校も昨年度までは35単位でした。教え込む教育から引き出す教育に転換しよう、生徒に時間を返そうというのが県の方針で、本校では思い切った31単位まで削減しました」（前田先生）

CPに基づき準備委員会が教育課程の原案を作成。さらに各教科の主任らからなるカリキュラム委員会が、教科・科目ごとの単位数について検討・調整した。「31単位に減らすことに対しては、さまざまな意見があった」と前田先生。また、「社会科学の教諭としての立場からすると、時数が足りずに苦しいのが本音」と堂森先生。それでも、CP



(左から)教務部・第1学年主任の前田英明先生、探究企画部・1年探究特進科担任の前川真奈美先生、探究企画部長の堂森峰春先生。

勝山高校探究科新設プロジェクト会議の様子。グループディスカッションは、組織を越えて混ざり合うよう配慮され行われた。



### ●勝山高校のSMとコンセプト

ダウンロード可

勝山市との協力や中高連携教育、産学官と連携したSDGsや学問的な関心に基づく探究的な学びを通して、自己の未来をデザインする力、本質を見極める力、他者と協働する力を育成し、生徒や保護者が希望する進路を実現する。

#### 進化のまちで「シンカ」する



### ●GPルーブリックと教科・科目の対応

ダウンロード可

領域・目標	探究・課題	探究・課題	探究・課題
幅広い知識と技能・技能を学び続ける力	探究や職業体験で知識・技能の習得を促すことによる力	他校や世界から自分の探究課題をデザインする力	ものごとくに臨んで臨機、本質を見極める力
幅広い知識と技能・技能を、探究を通して学び続ける力	探究・職業体験で幅広い情報から課題を発見し自分の学びとする力	自己の将来像を設計してデザインする力	本質を見極める力
幅広い知識と技能・技能を高い自立で学ぶ力	他校・世界について高い自立で課題を解決する力	他校・世界について高い自立で、本質を探究し理解する力	

「教科を通じて何を学ぶのか」を明確にすることで、各教科の教育目標や内容の設定の方針となっている。

また、堂森先生も、策定のプロセスにおける反省点を含めてこう話す。「とにかく時間がなく、GP・CPPとも言葉を吟味しきれていないという自覚があります。この言葉、表現でいいのか、意味がわかりにくいんじゃないかという意見も挙がっています。いかに「みんなのもの」にしていくかというのが、まさに本校の課題。プロジェクト会議でやったような意見の発散、共有といった、作るプロセスを、教員間でもっと一緒にできたらよかったなと思います」

同校では、現在、教務部を中心にアドミッション・ポリシー(AP)の策定を進めている。前田先生は、「APの策定と並行して、作ったポリシーをいかに運用していくか、今後も試行錯誤を続けたい」と締めくくった。

「いろいろな生徒がいて、得意・不得意もそれぞれなので、GPの示す内容が限定的だと、劣等感や自信喪失につながるかなと思うんです。9つあるうち1つでも、身についたな、伸びたなと思える力があれば、自分のできているところに目を向けることができる。これはとても大事なことだと思います」(前川先生)

#### 学校データ

1948年創立／普通科・探究特進科／生徒数315人(男子144人・女子171人)／2022年度に探究特進科を開設。初年度は定員を上回る数の志願者を集め、普通科の定員充足率も向上した。

ダウンロード可

※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 刊行物 >> キャリアガイダンス (Vol.443) ※「共通して育みたい人物像のGPルーブリック」のみもダウンロード可